

かがやき

No.142



通勤寮外観【葛飾通勤寮】



かつくら祭【葛飾通勤寮】



居住棟外観【妙義もみじ学園】



作品展示【妙義もみじ学園】

INDEX

令和7年度新役員からのご挨拶…………… 2	人権擁護委員会「じんけんBoard」…………… 8
令和6年度 第3回知的発達障害部会総会 …… 5	施設紹介「葛飾通勤寮」…………… 10
「第37回心をつなげる福祉マラソン大会」報告…………… 6	施設紹介「妙義もみじ学園」…………… 11
地域支援分科会学習会…………… 7	リレーコラム、編集後記…………… 12

●発行所 知的発達障害部会 部会長 小池 朗 ●編集 知的発達障害部会 広報委員会

●発行所  東京都社会福祉協議会

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1 TEL 03-3268-7174 FAX 03-3268-0635

●知的発達障害部会ホームページ(<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/chitekisyogai.html>)からもご覧いただけます。



令和7年度新役員からのご挨拶

部会長就任のごあいさつ～三方よしの福祉活動を期して

部会長 **金澤 正義**

(社会福祉法人武蔵野会武蔵野会 練馬区立光が丘福祉園)



副部会長3期を経て、前任の小池 朗部会長に代わり新たに部会長を務めさせていただくことになりました。多彩な事業種別と経営形態、所在地も都外各県に渡る約500事業所を抱える知的発達障害部会です。その責任の重さを自覚し、現場で奮闘されている皆様の声や想いを大切にして、部会役員・幹事・委員の皆様と協力しながら、東京の障害福祉向上のために頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

私は障害福祉に関わり35年になりますが、私の福祉の原点のひとつは学生時代に取り組んだ学生セツルメントにあります。活動のテーマは「地域変革と自己変革」でした。援助や居場所を求める子どもや障害のある人たちやお年寄りとの出会い、様々な取り組みを通じて、自らの気づきや成長、地域課題の解決につなげる……まさに今の福祉活動に通じる大切なテーマでしょう。更に言う

と、部会が一貫して掲げている「利用者主体＝当事者本位」の観点は、私たちの重要課題でもある意思決定支援の重要視とも言えます。これらをまとめればまさに、売り手（事業者・職員）よし、買い手（利用者）よし、世間（地域社会）よしの「三方よし」の福祉が、今、私たちに問われているのではないかと考えます。

私たちの部会は、やや私見が入りますが、種別分科会からなる経営研究会と現場スタッフが構成する利用者支援研究会がいわば部会活動の両輪として機能し、多数の専門委員会・特別委員会が部会活動全体にエネルギーをもたらす専門性を追求するというスタイルを取っています。部会の強みと考えています。会員の皆様には人員確保に苦心されている状況とは存じますが、ぜひ障害当事者の方々のより良い生活の実現のため、研修会や様々な取り組みへのご参加など、活発な部会活動へのご協力を心よりお願い申し上げます。

「成長と発展」

副部会長 **月岡 亮**

(社会福祉法人 つるかわ学園)



平和と希望が持てるとともに、利用者・ご家族・職員みんなが笑顔になれる時代を願いスタートした「令和」。感染症の問題はもとより、人口変動や地球環境の変化による影響、人材不足や物価高騰等、先が見通せない厳しい状況が続いておりますが、今年60年に一度しか巡ってこない「乙巳（きのとみ）」の年です。「努力を重ね、物事を安定させていく」「成長と発展」の年と言われており、非常に縁起の良い年だそうです。東社協知

的発達障害部会は現在500近い施設が登録されております。組織が大きくなれば当然課題も多くありますが、新たなスタイルを見出し、「成長と発展」の年となりますように会員施設がひとつとなり、チーム福祉で様々な課題に取り組み、利用者、職員ともに笑顔あふれる東京の福祉の実現に向けて邁進していきます。

今期も引き続き、副部会長を務めさせていただくこととなりました。微力ではありますが、皆様と協力しながら精一杯尽力いたしますので、よろしくお願いいたします。

『本人たちを中心に』

副部長 高橋 加寿子
(社会福祉法人田無の会たんぼ)



今期より2期目の副部長を務めさせていただくことになりました。まだまだ力不足を痛感しており、責任の重さを実感しております。

2年前に役をいただいたのと同時に、本人部会支援に委員として関わらせていただくことにもなりました。平成24年の本人部会発足時に初代の本人部会支援委員長に就任していましたが、約10年のブランクあり、久々に委員として戻ってみると、当時の私を知るメンバーさんが拍手して迎え入れてくれたことがすごく嬉しかったのを思い出します。そこから早2年、令

和6年度の活動では、本人部会として初の取り組みで『第37回心をつなげる福祉マラソン』にボランティアとして参加しました。本人たちは初めての活動に最初は戸惑っていたようでしたが、何をするのかがわかってからは、誘導や応援など、いきいきと役をこなしていました。部会が主催するイベントに、本人たちが主体的にかかわりを持てたことは、部会にとっても大きな意義のあることだと思います。

これからも『本人たちを中心に』を意識した部会活動となりますよう、微力ではありますが会員の皆さまと協力して前進していきたいと思えます。

「引き続き」

副部長 有賀 弘
(社会福祉法人しあわせ会 白州いずみの家)



前期に引き続き、この4月からも副部長を務めさせていただくこととなりました。副部長についてはこれまで通り、微力ながらも職責を果たしていく所存です。加えて令和7～8年

度は「部会在り方検討会」を立ち上げて担当させてもらうことになりました。この検討会については、時代の流れとともに増えていった委員会や特別委員会、あるいはイベント等を一旦総合的に見直して、今後の部会活動を考えていくことを目的

としています。

四半世紀前に私が部会役員として関わった時から、会員施設数は2.5倍、役員数も10名以上増えています。それに伴い、様々な部会活動を企画運営するために必要な予算や役員・幹事等の人手も増えてきています。一方で昨今の人材不足から役員の手は少なく、後任探しに苦労する状態が続いています。関係各所の意見を聞きつつ、活動や業務を整理し、安定した部会運営ができるように、今後の部会の在り方を検討していきたいと考えています。

「副部長就任にあたって」

副部長 乾 晶子
(滝乃川学園)



4年前、何もわからないまま入所施設分科会の幹事となり、2年前には代表幹事となりました。そして、この度、副部長に任命されました。ただただ、この展開に驚いているところです。

私がこの仕事を続けてこられたのは、これまで関わってきた利用者の存在が大きいです。30年近く従事してきたので、多くの出会いと別れがありました。決して、納得のいく別れではないこと

もありました。そんなときも支えてくれたのは利用者でした。

今、人材不足は多くの事業所で抱える課題かと思えます。利用者の支援は、大変なことも多いけれど、それを超える楽しさ、やりがい、醍醐味があります。関わる全ての人が、この仕事がいい！と思ってくれるために自分はどうすればよいのか考える日々です。

微力ですが、諸先輩に色々教えていただき努めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

ますます活発な部会にしましょう

事務局長 松下 功一
(社会福祉法人文京槐の会 は〜と・ピア2)



前期に引き続き事務局長を仰せつかりました。どうぞよろしくお願いいたします。

2年間を振り返ると、今まで以上に部会活動に熱心に参加し、学びの機会を与えていただきました。毎月、施設長を中心とした経営研究会、従事者を中心とした利用者支援研究会が、各種分科会や専門委員会、特別委員会で活動を行っていますが、みんなで課題を共有し、自分事として一つ一つ乗り越えていくチームに身をおけること

は、何よりもの幸せと感じています。

部会の重点目標の一つは「利用者主体の支援」です。客体ではなく主体なのです。障害のある人の人権が尊重され、権利が侵害されることの無い世の中をつくるのが私たちの使命であることを今一度肝に銘じ、新たな任期を迎えたいと思っています。あわせて支援者自身も幸せを感じられる職場づくりを模索していきたいと思っています。

新たな施設長や従事者の皆様にご参加いただき、部会活動がますます活発になることを願っています。

令和6年度 第3回 知的発達障害部会 総会

広報委員 坂口 啓 (調布福祉園)

令和6年度第3回総会は2月5日(水)に会場とZOOMミーティングによるハイブリット方式での開催となりました。内容は、東京都行政説明・部会からの報告事項・記念講演の3つのテーマが取り上げられた総会となりました。

○東京都行政説明

1. 令和7年度予算案のポイントについて
 2. 生活福祉部からのお知らせ
 - (1) 令和7年度TOKYOふくしチャレンジ 職場体験事業について
 3. 地域生活支援課からのお知らせ
 - (1) 強度行動障害対応力向上研修
 - (2) 新規採用職員の職場定着支援事業
 - (3) 障害福祉サービス等職員居住支援特別手当事業
 - (4) デジタル技術を活用した障害福祉サービス事業等支援事業
 - (5) 障害者グループホーム地域連携推進事業
 4. 施設サービス支援課からのお知らせ
 - (1) 障害者支援施設等デジタル技術等活用支援事業
 - (2) 地域移行促進コーディネート事業
 - (3) 障害者支援施設等支援力育成派遣事業
 - (4) 障害者支援施設等リハビリテーション職員配置促進事業
 5. 連絡事項等
 - (1) 食事提供体制加算について
 - (2) 施設・事業所における事故等防止対策の徹底について
 - (3) 施設・事業所における虐待防止体制の整備の徹底について
- 上記の件について、各担当より説明がありました。

○部会からの議決事項・報告事項

今回の総会において、議題が4項目、報告が2項目ありました。

- 【議題1】 令和6年度知的発達障害部会補正予算(案)について
 - 【議題2】 令和7年度知的発達障害部会事業計画(案)について
 - 【議題3】 令和7年度知的発達障害部会予算(案)について
 - 【議題4】 令和7年度役員体制(案)について
 - 【報告1】 表彰・叙勲受章者紹介
 - 【報告2】 本人部会からの報告
- 上記の件について、各担当より、説明がありました。

○記念講演

「国際障害者年」「障害者権利条約の総括所見」をはじめとする国連の影響と日本の知的障害者福祉というテーマに、講師として崔榮繁氏をお招きし、講演をしていただきました。

福祉を取り巻く世界の動向についてわかりやすく解説し、これからの日本の福祉の取り組みについてお話をいただく中で、今回の講演では「人権・差別の禁止・意思決定・自己決定・インクルージョン」というキーワードに触れてお話をいただきました。

普段行っている支援についても、今回のキーワードを意識しながら支援していくと、より、利用者のニーズに沿った支援になるということを再確認させていただきました。貴重なご講演ありがとうございました。

第37回心をつなげる福祉マラソン大会報告

大会実行委員長 荒木 一彦

第37回心をつなぐ福祉マラソン大会は、令和7年2月16日（日）13時30分に皇居桜田門時計台前からスタートしました。前年度まで9年連続大島小松川コースにて、大会を開催していましたが、コロナ過による3年間中止も影響してか、参加者は減少傾向にありました。

今大会は、少しでも多くの方に参加していただこうと10年ぶりに皇居コースでの開催いたしました。皇居といえばランニングのメッカ。参加申込は197名となり、ここ3年間ではもっとも多い人数となりました。しかし、皇居では制約が多く、昨年度、賛助金で作成した横断幕やのぼりが使用不可。また更衣室テントの設置も禁止のため、「走った後の着替えはどうするのか」と複数の方々から問い合わせをいただきました。当日、道路を挟んでの駐車場に簡易テントの設置を用意しましたが、次回の課題として更衣場所のある会場が求められると感じています。スタートについても、1グループ100名以内の制約があり、13時30分から2組に分かれて走っていただき、180名の方が無事に完走。ゴール手前では応援スタッフの声援に囲まれ、大会を盛り上げることができました。応援スタッフの中には、今大会初めて本人部会の皆さんにスタート・ゴールの誘導、コース管理に分かれて、ご協力をいただきました。皆さんの声援のたびに、ランナーも振り返って手を振る方もいました。また、本人部会の仲間を増やそうとチラシを配布しており、福祉マラソン大会をきっかけに新たな出会いがあることを願っています。

大会Tシャツやプログラムのデザイン案公募についても恒例となり、今年も約130点の応募作品の中から27点を選考しました。今回、新たな取り組みとして、使用されたメダルをリニューアルして福祉施設等に届

皇居・マラソンコース マップ参照



けている「株式会社ジャパンプライズ」の活動に賛同し、大会上位1位～3位メダル以外にも、10位、20位といったピッタリ賞15名、またデザイン賞27名の方々にもメダルをお渡ししました。大会当日に直接、お渡しできれば喜びも共感できたのですが、後日郵送となってしまったので次大会にはしっかりと準備したいと思います。そして、「東京ウエストライオンズクラブ」には、3年連続大会後援として協賛金寄与および大会当日ボランティアとしてご協力いただきました。多くの関係者の支えがあつての開催に、本当に感謝いたします。今大会は、皇居ならではの制約が多く、特に更衣テントを集合場所に設置できなかったことで、大変ご不便をおかけしました。

次回は、令和7年2月に開催予定としています。このたび、「東京マラソン財団」の助成事業「たまごプロジェクト」へ申請したところ、採択されました。障害の有無を問わず「インクルーシブ」をモットーに多くの方々に参加していただこうと、改めて開催場所や企画を考えていきます。福祉マラソン大会企画実行委員会メンバーも募集中ですので、興味のある方は、ご協力の程よろしく願いいたします。



「地域支援分科会 学習会報告」

地域支援分科会

代表幹事 小池 史彦

学習会を企画した背景

地域支援分科会では年に2回、学習会を企画しています。

令和6年度は医療少年院の見学を行うことになりました。見学先を医療少年院にした背景とし、特殊詐欺の受け子や出し子、ト一横キッズなどのニュースを目にするたびに、軽度の知的障害や境界知能の子供たちなのかもしれないという疑問がありました。また、全国の受刑者の約3割が療育手帳を取得していることから、実際のところはどうか、なぜ収監されることになったのか、出院後の生活はどうかなど、わからないことが多かったため、通勤寮の現場職員を中心に学習会を企画しました。

学習会の様子

見学先は、東日本少年矯正医療・教育センターで、関東医療少年院と神奈川医療少年院が閉庁となり統合し、平成31年4月1日に設立された医療少年院です。今年度は2回訪問しました。

各回の見学当日は、約20名の参加者が集まり、センター創設の経緯や利用者の現状と課題についての説明を受けました。施設見学では、設備の見学だけでなく、実際のプログラムも見学し、在院者の様子を知ることがで

きました。

センター在院者の多くは知的・発達障害の診断を受けており、在院中に療育手帳を取得する方もいます。何らかの障害がある方の割合が他の医療少年院よりも多く、また重要犯罪を犯した方の割合も高いとのことでした。

プログラムでは、生活、職業、教科、体育指導などが行われており、見学時には体育指導の場面を見学しました。特定生活指導では、行動認知療法のような取り組みが行われており、指導員と在院者のやり取りが軽妙で、私たちの支援にも参考にしたいと思いました。出院後の行き先として、父母のもとへ帰る方が多い一方で、地元に戻れない事情がある方もおり、本人自身の様子よりも罪名に注目されることが多く、その後の行き先に苦慮しているとのことでした。

今後の課題と連携

在院者の方は、私たちが普段接している利用者と変わらない様子でした。どこかで、福祉サービスとつながっていれば違ったのか？どんな背景があって、何をきっかけに犯罪を犯してしまったのか？いろいろと考えさせられました。こうした方々の地域生活を支えるために、私たちがどのように関わっていけるか、連携を取ることができるか、今後の課題として参加者と共有できれば幸いです。

じんけん Board

わたしの



ホッと



支援を通した利用者とのかかわり、ご家族との会話の中や地域の方などが集まる場所で偶然出会う瞬間に、「ニやり」としたり心が温かくなったりすることがあります。自分だけのものにしておくのは「もったいない」ので、「ホッと」な気持ちが広がっていくように書き留めてみました。

<職員のにやり>

2階のご利用者が多数熟発している状況を見て、防護服着脱マニュアルの印刷やラミネートを準備していました。

ユニットや支援室横の壁のお掃除と、ユニットのカーテンの洗濯を率先してやってくれました！普段やろうと思ってもなかなかできない所だったのでとても嬉しかったです！ありがとうございます！

ご利用者が普段過ごしているマットレスを拭いてくれました。細かな気付きににやりです。

緊急のショートステイで来る方の情報を共有していただきました。はじめましての方だと対応に困惑することがありますが、事前に情報があったおかげで戸惑い少なく支援に入ることができました！

夜勤明けで2階早番男性がいないことを見越して動いてくださっていました。そういう配慮はとても助かりますね。ありがとうございました。

朝食後の歯磨きの時間が少なく、排泄、洗体の兼ね合いもありバタバタしていた所、歯磨きの手伝いやコップ洗いを手伝っていただきました！おかげ様で何とか間に合いました。ありがとうございました！

企画で使用するビンゴの用紙づくりを手伝って下さいました。とても助かりました。いつもありがとうございます！

夜勤明けにもかかわらず、カレー企画のイラストデザインの選定や配置、印刷まで手伝って下さいました！ありがとうございました！

<利用者のにやり>

いつも洗濯配りを手伝ってくださりありがとうございます。

歯磨き粉の中身が少ないため職員が残りを絞り出していたのを見て、新しい歯磨き粉の封を外して下さいました！いつも周りの動きをよく見ていてステキです！

ウォーキングの際、横断歩道で信号が赤に切り替わり、それを見てしっかりと手前で止まることが出来ました。交通安全に気を付けていて素敵でした。

いつも2階のみなさまのおやつのお買い物を手伝ってくれています。カートを押してくれたり、おもしろ荷物を運んでくださり、ありがとうございます！

ウォーキング帰り上着をしっかりとハンガーにかけ元の場所に戻していました。新年から整理整頓に気を付けていて素敵でした。

支援者の皆さんが『自分の仕事を振り返る』『権利意識を高める』きっかけになればとの想いを込めた川柳のコーナーです。皆さまの投稿お待ちしております。

人権とは
自由を
認めること

本来は誰もが自由なんです。誰だって食べ過ぎちゃったり、お金使いすぎちゃったりすることもあります。ダメ出しするんじゃないかって、一緒に考えてほしいな。

明るい
笑顔
広がる輪

笑顔は、「あなたを信頼しています」のサイン。対利用者・対職員ともに笑顔と笑顔で信頼関係アップ！支援力アップ！

思いやり
みんなで持って
いい支援

「思いやり」って、誰かが誰かに一方的に持つものじゃなくって、みんながお互いに持つもの。障害のあるなしは関係ないと思いませんか？

大切にしよう
相手の気持ち
自分の気持ち

支援するとき、相手の気持ちを大事には当たり前だけど、自分の気持ちも大切。それが長続きのコツかもしれないね。

気付くこと
伝えて広げる
支援の輪

気づいたことは口に出そう。思いや気づきを共有していくことで、支援の輪が広がり、層も厚くなっていくと思うのです。

考えて
自由と支援の
境界線

意思決定、っていうから自分の思いを言ったら、「それはわがまま」だって！じゃあ「支援」ってなんなんだろうね？

昨日より
良いとこひとつ
見つけよう

同じ日は一日だってありません。毎日違うなら、どうせなら昨日よりちょっとだけよいところを見つけて、昨日より今日を、今日より明日をハッピーにしましょう！

投稿おまちしております

読者の皆さまからの投稿をお待ちしています。

- ① 「わたしのニヤリ・ホッと」
- ② 「誰か教えて！私の支援間違っていない？」
- ③ 「川柳ぼーど」

①②の投稿につきましては、紙面の都合上1,200字以内とさせていただきます。原則として原文のまま掲載いたしますが、場合によっては内容を損なわない範囲で加筆・修正させていただきます。尚、事例については、施設・個人名が特定できないようご配慮をお願いいたします。

③の川柳のテーマは福祉に関係するものであれば構いません。

投稿は匿名でもお受けいたします(その旨記載してください)。手紙、FAX、メールとお好きな方法でお送りください。

手紙の場合

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
知的発達障害部会 人権擁護委員会 宛

FAXの場合

03-3268-0635
知的発達障害部会 人権擁護委員会 宛

メールの場合

東京都社会福祉協議会 知的発達障害部会 事務局
chiteki@tcsw.tvac.or.jp 宛に「じんけんboard投稿」とタイトルをつけて送信してください。

施設紹介

葛飾通勤寮

葛飾通勤寮は、社会福祉法人原町成年寮の運営する葛飾区にある宿泊型自立訓練施設です。2017年に葛飾区東堀切地区に移転後は完全に個室に変わりました。利用者の定員35名（男性25名、女性10名）、利用期間2年～3年の中で通勤寮の中で自立に向けた勉強をしています。2年～3年の利用期間を経たあとは一人暮らし、グループホーム、ご家庭に戻るなど地域での生活へ移行をしています。

○地域の中で支える葛飾通勤寮

葛飾区の東堀切地区の中で、地域のお祭りに参加するなど、葛飾通勤寮と同施設内にあるcraft（就労継続B型事業所）、奏かつしか（GH）の三事業所と合同で「かつくら祭」というお祭りを開催し、通勤寮を地域に開放したお祭りも実施、地域のお祭りにも参加し地域に根差して利用者の生活を支援しています！

○葛飾通勤寮の魅力！

葛飾通勤寮では、これまで訓練という事業もあり利用者、職員の中でもそれぞれの認識の中で細かなルールが出来上がってしまっていたこともあり、改めて支援のあり方を見直し、昨年の4月より職員で話し合いをし「自分らしく生きていくサポートをします！」というテーマを決定しました。自分自身で人生を歩んでいく、自分の人生を決めていけるよう支援していくことを掲げ、日々利用者と向き合いが合いながら、生活としての「自立」、そして精神的な部分での自分を律する「自律」する力を身に付けられるよう支援をしています。

通勤寮という施設は限られた時間の中で、利用者との向き合っていく必要があります。期限を迎えた多くの利用者はグループホームへの移行をしています。次の

生活でどう人生を歩んでいけるのかを見極めています。成功もあれば失敗もある、そんな当たり前の人生の中で彼らが成長していくことのできるよう支援しています。

通勤寮の中では、毎日のお小遣い帳のチェックから給与をどのように使うのか考えてもらう金銭的な自立への支援や、一般就労されている方々がほとんどなので職場と連携しながら就労継続に向けた支援、また日々の様子の中で最近では精神的な不安を訴えるかたも多く、そういった部分に寄り添いながらも乗り越えていく力を付けていくため、一人一人と向きあいながら支援を行っています。

社会福祉法人原町成年寮のスタートでもある葛飾通勤寮、全国的にも通勤寮という施設は減っていますが、「自立・自律」を学ぶための大事な時間、機会を提供できることが大きな強みだと思っています。それぞれの道、人生を歩んでいく利用者を応援し、自分の人生を歩んでいっていただけるよう、法人の幹として、また本人たちの経験、人生の幹となれるよう通勤寮という事業所の意義を職員それぞれで考えながら、日々奮闘しています。

○自立を目指すみなさんの利用をお待ちしております！

職員、利用者ともに毎日それぞれの課題と向き合い頑張っています。是非、自立に向けてやる気のある方、まずは見学に来てみてください。親子のより良い関係を築くことに悩まれている方もお問い合わせをお待ちしております。公式LINEも昨年より運用させていただいています。ぜひ覗いてみてください！



通勤寮外観



アットホームなチーム



プログラムの様子



かつくら祭

施設紹介

妙義もみじ学園

【妙義もみじ学園について】

妙義もみじ学園は、上毛三山と1つとして有名な妙義山を眺めることが出来る自然豊かな場所に、昭和55年6月1日に都外施設として開設しました。定員50名の内9割の方が東京都内から利用されており、年代も20代から90代までと幅広い方々が生活されています。また、短期入所事業も行っており、定員4名を受け入れています。

【安心安全に生活を送れるように】

妙義もみじ学園では、利用者の皆さんが自分らしく安心安全に生活を送れるように支援を行っています。日中活動では、ご本人が楽しく続けられる活動を検討提供し、個性や興味を大切にしています。また、余暇時間には快適かつ充実して過ごしていただけるようにご本人の希望を尊重し、それぞれの個性に合った居室整備も行っています。

【居住棟改築】

令和4年3月に女性居住棟のA棟が新しくなりました。現在は、令和8年3月完成予定で男性居住棟のB棟が改築工事を行っています。工事期

間中は利用者皆さんが安全に過ごせるよう、工夫をしながら支援にあたっています。新しいB棟が出来ののを利用者皆さんはもちろん、職員一同楽しみにしています。利用者さんの高齢化もあり、支援する職員の負担軽減も期待されています。利用者皆さんが安心安全な生活を送るためにも、居住棟改築に伴いICT導入も進めていき職員の働きやすさへも繋げていければと思っています。

完成後HPに写真掲載予定ですので、ぜひご覧ください。

HP：<https://myougimomiji.com/>

【これから・・・】

都内から見学に来られる方は、妙義もみじ学園の自然の豊かさにびっくりされる方も多くいらっしゃいます。そんな立地での課題もありますし、ここだからこそ出来るという強みもあると思います。利用者さんの高齢化や重度化、職員確保の課題もありますが、これからも利用者皆さんが自分らしく、安心安全に楽しく生活送れるように。利用者さんも職員も毎日穏やかに笑って過ごせるよう努めていきたいと思っています。



3月からB棟解体が始まりました。1年後が楽しみです



季節ごとの行事も皆さん楽しみにしています



県内の文化祭で作品展示し、賞もいただきました



日中活動グループで合同作品も作成しています

利用者の皆さんの働く力で地域貢献

53

社会福祉法人夢ふうせん 施設長 浅野 大輔

私たちの施設では、知的障害のある利用者の皆さんがそれぞれの作業グループに分かれて仕事をしています。その一つである「パングループ」で作っているパンですが、完売する日もあるのですが、どうしても売れ残ってしまう日があるのが現状です。せっかく作ったパンをどうにか活かすことができないか、社会福祉協議会や地域の福祉施設のつながりを使って、こども食堂を実施しているところに繋いでもらいました。今年の2月から、その日売れ残ったパンを夕飯に付け足す形で提供してもらえることになりました。市内3ヶ所のこども食堂に日替わりでパンを提供しています。食堂を利用しているお子さんたちが、パンを食べら

れるととても喜んでいただいております。利用者職員で一所懸命作ったパンが、地域で食べることに困難を抱えるお子さんたちの役に立っているということをととても嬉しく、誇りに思います。

パングループ以外でも地域の高齢者と産後のお母さんのいる家庭への配食弁当を作っているグループ、隣の中学校の花壇の整備をしているグループ、児童館の消毒作業をしているグループなど利用者の皆さんの働く力が、地域に貢献しています。これからも私たちの施設がこの地域にあって良かったと思ってもらえるよう、利用者の皆さんの働く力で地域貢献していきたいと考えています。

編集後記

コロナ禍での「かがやき」が都内施設の情報をつなげる細い糸のような感覚に陥っていたころが嘘のようです。今はいろんなことがかがやきを増し、ページを開くたびに笑顔の利用者の方々の写真。やっぱりいいですね。今年も読んでいただく皆さんがわくわくしながら見ていただける「かがやき」を広報委員チーム一丸となり編集してまいります。

楽しい原稿どしどしお寄せください。お待ちしております！

(港区立障害保健福祉センター 朝山 智美)